

当社コメント

(原子力規制委員会による敦賀発電所の追加調査結果報告への対応について)

本日の原子力規制委員会の定例会合において、去る7月11日に当社が原子力規制委員会に提出した敦賀発電所敷地内破碎帯の調査に関する報告書について、その内容を精査し、論点を整理するため、島崎委員と原子力規制庁による公開の検討会合を開催し、その結果を踏まえてその後の対応を検討することが了承された。

原子力規制委員会は、これまで新たな知見が得られたら評価を見直すと明言してきており、今回の検討に当たっては、先に当社が提出した新たな知見はもとより、これまで提出してきた各種報告書等について、公正・中立な立場で科学的に検討されることを強くお願いしたい。また、その際には、当社が出席し説明するとともに、実質的な議論及び現地調査が行われるよう、強く求めたい。

なお、先の当社報告書で明らかにしたように、「2号炉原子炉建屋直下を通るD-1破碎帯は後期更新世以降活動していない」ことが一層明確に確認されたことから、5月22日の原子力規制委員会では了承された有識者会合の評価書について、今後、外部専門家も加えて見直しをすることを強くお願いしたい。

以 上